中学校教科書国語新教材の導入授業の実践
～「シンシュン」「辞書に描かれたもの」を読むために～

Practicing an introductory class using new lesson materials of Japanese language teaching textbooks for junior high school ~To read literary writings~

岡 英里奈・髙橋 永行
OKA Erina and TAKAHASHI Nagayuki

要旨

2021年度から中学校においても新学習指導要領が導入され、新教科書を使った授業がスタートした。本稿では小説（文学的文章）単元で掲載された新教材の導入授業について、指導計画並びに学習活動の提案と、本学教職課程必修科目「国語科教育法」において受講生が行った模擬授業の点検を行う。対象教材は光村図書『国語１』掲載の「シンシュン」（西加奈子）と、東京書籍『新しい国語２』掲載の「辞書に描かれたもの」（澤西祐典）である。本論では、まず本研究の目的と概要を示した後、２つの教材それぞれの１時間目の授業デザインのポイントを論じ、その後受講生が行った模擬授業の検討から、目的意識・課題意識を生徒に喚起し、主体的な学びにつなげる導入授業のあり方について考察した。

キーワード：国語教育、授業デザイン、新教材、PDCAサイクル、模擬授業、読書活動

はじめに

2021年度から中学校においても新学習指導要領（平成29年告示）が導入され、新教科書を使った授業がスタートした。小説（文学的文章）単元で掲載された新教材の導入授業について、指導計画並びに学習活動について考えてみたい。本学教職課程必修科目「国語科教育法」において受講生が行った模擬授業を点検することで、指導に係る評価を通じて授業改善を図る、PDCAサイクルの中に位置づけたい。

扱う教材は次の２点である。

⑴光村図書『国語１』シンシュン（西加奈子）

⑵東京書籍『新しい国語２』辞書に描かれたもの（澤西祐典）

作品の概略については簡潔に触れるにとどめる。

光村図書１年に掲載された「シンシュン」は、生徒が中学１年生として初めて教科書で出会う小説である。入学間もない時期での学習なので生徒自身の体験と結びつけやすい教材と言えるだろう。

東京書籍２年に掲載された「辞書に描かれたもの」は、「字のない葉書」での学びをもとにさらに長い文章を読み味わう学習が期待される。

１　本研究の概要

本稿で取り上げる２教材は、中学１・２年生の「C 読むこと」領域に相当し、授業構成は４時間を標準時間とするものである。各時の授業目的は、「構造と内容の把握－　文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること（１時間目）」、「精査･解釈－　目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること（２・３時間目）」、「考えの形成･共有－　文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること（４時間目）」とする。

全４時間のうち１時間目の授業計画について検討する。導入授業の重要性に注意し、目的意識・課題意識を生徒に喚起し、どう主体的な学びにつなげるかという工夫が見られるかという観点を持ち、「国語科教育法」での学生の模擬授業の進め方・教材準備の評価も取り入れて実践的な場を観察して問題点を洗い出す。

現職教員が工夫して授業を計画し実践する例ではなく、教育実習に備えて国語科の教授法を学ぶ学生が初めて模擬授業を行うときの「導入授業」案を検討対象とする。標準的な時数、指導計画に基づいて、「文学を鑑賞するための学習活動」を行うために、「第１時（導入）」における授業実践の進め方、発問の仕方、生徒の「主体的学び」への観察評価のあり方についても考えたい。

教職課程の担当教員としての立場から、学生は参考資料のより深い学習や授業準備をしているか、教師用教科書、学習指導書をどこまで参考にしているか、「読み」を意識させる音読・範読による教材の導入にどのような工夫がみられるか（模範ＣＤをどう活用するか）が指導評価対象である。

受講学生の取り組みとしては、

①基準となる単元計画を明示し、第１時の計画を立てる

②教職課程１年生として模擬授業を実践し、自己評価を的確に行える

③ＰＤＣＡサイクルの形成をもとに授業改善につなげる

とも関わらせるよう指導したい。

２　「シンシュン」教材研究と授業デザインのポイント

本教材は、光村図書『国語1』に収録されている。作者は西加奈子、本教科書のための書き下ろしである。本教材の教材研究および授業デザインにおいては、以下の点に着目することが重要である。

⑴本文の構成に応じた物語の展開を捉えること

本教材は生徒が入学後に初めて学ぶ文学的文章である。教科書28～29ページ「学習の窓」にも書かれているように、物語や小説に対し、場面がどのように展開しているかを考えながら読む方法を学ばせたい。本文は三つの意味段落に分かれ、段落ごとに場面や人物同士の関係性がわかりやすく変化するため、上記のことを学ぶのに適した教材である。

⑵視点人物の心情や人物同士の関係を表す表現への注目

⑴に関わる形で、視点人物の心情や人物同士の関係の変化を表す表現に注意を向かせたい。具体的には、「驚いた」などの心情を表す言葉を的確に捉えること、「そこに「僕がいる。」」、「頭をがつんと殴られたような気がした」等の比喩表現が意味することを生徒自身が言葉で説明できるような指導が求められる。

⑶生徒自身の経験に引きつけて読むための発問や声掛け

教科書では、学習の初めと終わりに本教材について生徒に感想を書かせ、共有することが提案されている。本教材は学習時の生徒の状況に近い登場人物や題材になっているが、そのことに注意を向かせ、物語を自分の経験に引きつけて読み深めるための発問や声掛けを意識したい。

次に、学習指導案例を提案する。全体の学習目標は次の2点である。

①心情や行動を表す語句に注意して読むこと（C　読むこと⑴イ）

②場面の展開に沿って、登場人物の関係の変化を捉えること（C　読むこと⑴イ）

指導計画の概要は、全４時間（標準）として次表に示す。

時	学習活動	評価計画（評価基準）
1	①学習目標を確認し、学習の見通しを持つ。 ②全文を通読する。 ③大まかな内容を捉えた上で、初読の感想をまとめる。 ③新出漢字や語句を確認する。	①④知識及び技能(1) ②③思考力判断力表現力等Ｃ読むこと(1)ア
2	①本時の目標を確認する。 ②本文第１場面、第２場面前半を読む。 ③②の範囲で、二人の関係が読み取れる表現を場面ごとに表にまとめる。	①②③思考力判断力表現力等Ｃ読むこと(1)イエ
3	①本時の目標を確認する。 ②本文第２場面後半、第３場面を読む。 ③②の範囲で、二人の関係が読み取れる表現を場面ごとに表にまとめる。 ④まとめた表をもとに、二人の変化について話し合う。	①②③思考力判断力表現力等Ｃ読むこと(1)イエオ ④思考力判断力表現力等Ａ話すこと聞くこと(1)オ
4	①本時の目標を確認する。 ②これまでの学習を振り返り、読み深めた感想を200字程度でまとめる。 ③グループに分かれ、感想を発表し合う。 ④学習を振り返り、学んだことをまとめる。	①②④思考力判断力表現力等Ｂ書くこと(1)ウ、及びＣ読むこと(1)オ ③思考力判断力表現力等Ａ話すこと聞くこと(1)エオ

全体の指導計画を踏まえた上で、1時間目（本時）の学習目標例を次のように設定する。

①生徒が学習目標を確認し、学習の見通しを持つ。
②全文を通読し、初読の感想をまとめることで、作品の全体像や場面構成を把握する。
③新出漢字や語句を確認する。

①では、教科書28～29ページ「学習」欄の「目標」と、４時間全体の学習の見通しを確認する。また本教材は学習時の生徒たちの環境に近い物語であるため、中学に入学して新しい友達はできたか、どのようなことがきっかけで仲良くなったかなどの問いかけをしても良いだろう。作者についての紹介なども適宜行い、積極的な学習につながるような導入を心がけたい。

②では、ＣＤの視聴を勧める。視聴中は生徒の反応に注意し、新出漢字や読み方のわからない語句にはふりがなを書き込ませるなど、③の学習にもつながるよう心がけることが重要である。初読の感想を書かせる前に、語り手兼主人公は誰か、友達とのどんな出来事が書かれているかなど、発問を重ねながら大まかな内容の確認を行いたい。

③では、プリントなどを用意することが望ましい。もしくはタブレット等を活用したい。適宜自宅での課題にまわすなど、時間配分に注意したい。

３　「辞書に描かれたもの」教材研究と授業デザインのポイント

本教材は、東京書籍『新しい国語』２に収録されている。作者は沢西祐典、出典は「小辞譚　辞書をめぐる10の掌編小説」（猿江商會　2017刊）である。

本教材では、文学的文章を読むための重視すべき教材研究の準備としてつぎの３点をあげる。

⑴物語進行の視点

主人公である「私」の心情変化をどう描いているか。第1学年の教材「シンシュン」は入学後に知り合った二人が親しくなる様子を描いているのに対し、第2学年の教材「辞書に描かれたもの」は小学校から

親しかった二人が疎遠になる様子を描いている。対照的な２作品であるが、掲載する出版社が異なるため、中学生にとって同時に学ぶことができないのは残念である。

⑵対人関係と登場人物の言動

場面ごとに変化するさまが平易に描かれている作品である。学習者自身で表現を見つけることができるはずなので、主体的言語活動として指導させたいところである。

⑶本文の構成

⑵でつかみ取った内容をもとに形式段落を意味段落に切り分けてみる。そこから生徒自身の考えを深めさせたい。

次に、学習指導案例を提案する。全体の学習目標は次の２点である。

①場面の展開や登場人物の相互関係, 心情の変化などについて, 描写を基に捉えること（C　読むこと⑴イ）
②文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにすること（C　読むこと⑴オ）

指導計画の概要は、全４時間（標準）として次表に示す。

時	学習活動	評価計画（評価基準）
1	①生徒が学習目標を確認し（注)、学習の見通しを持つ。 ②全文を通読する。概要を把握し、場面構成を捉える。新出漢字や語句を確認する。	①知識及び技能⑴ ②思考力判断力表現力等C読むこと⑴ア
2	①本時の目標を確認する。教科書p44てびき❶を確認する。 ②本文前半部分を読む。 ③二人（「私」と「上野」）の人物像をまとめる。人物像を理解する手がかりとなった表現を探す。 ④学習課題（二人の人物像）に沿って読み取ったことを話し合う。	①②③思考力判断力表現力等C読むこと⑴アイ ④思考力判断力表現力等A話すこと聞くこと⑴ア
3	①本時の目標を確認する。教科書p44てびき❷を確認する。 ②本文後半部分を読む。 ③「上野の辞書」に対する「私」の心情変化をとらえる。 ④学習課題（人物の言動の意味を考える）に沿って読み取ったことを話し合う。	①②③思考力判断力表現力等C読むこと⑴アイ ④思考力判断力表現力等A話すこと聞くこと⑴ア
4	①本時の目標を確認する。教科書p44てびき❸を確認する。 ②小説を読み、考えたことをまとめる。 ③グループを作り、意見発表をする。 ④学習を振り返り、学んだことをまとめる。	①思考力判断力表現力等C読むこと⑴ア ②④思考力判断力表現力等B書くこと⑴ウ ③思考力判断力表現力等A話すこと聞くこと⑴ア

全体の指導計画を踏まえた上で、１時間目（本時）の学習目標例を次の２点とした。

①生徒が学習目標を確認し（注)、学習の見通しを持つ。
②全文を通読する。概要を把握し、場面構成を捉える。新出漢字や語句を確認する。

①では、教科書p36作品タイトル下の点線で囲んだ「問いかけ」およびp44「てびき」の目標を確認する。作品のタイトル「辞書に描かれたもの」という表現から作者が意図することは何か、予想してみることを取り入れても良いだろう。大澤由紀（2021）は「探求的な言語活動」として位置づけている。作者や作品について概要を説明することも必要だろう。

②では、通読の仕方を選ぶ。CD視聴（収録者　吉野裕行：声優　『弱虫ペダル』の荒北靖友役、『ハイキュー!!』の岩泉一役など。収録時間20分27秒）が望ましいと考える。教師が範読してもよいが、実習生の段階では生徒の反応や読みへの集中度を観察する余裕はないと思われるので、CD視聴を実習学生には勧めたい。

4　国語科教育法受講生による模擬授業について

実習生の模擬授業を観察し、事後の講評と改善案を検討する。令和４年度国語科教育法受講生15名を４グループに分け、物語文（中１・中２）、説明文（中１・中２）の教材を元に模擬授業（第１時）を繰り返し行わせた。

4-1 「シンシュン」模擬授業

2022年11月１日（第１時１回目）、2022年11月15日（第１時２回目）に模擬授業を行わせた。最初に模擬授業を行うグループである。初回（１回目の第１時模擬授業）で学生が作成した学習指導案のうち、「指導過程（第１時）」の学習活動、指導内容、計画時間設定を以下に示す。

時間配分	学習内容	学習活動 〇発問　　△指示	☆指導上の留意点 ◇評価基準
５分	１．目標と本時の流れの確認		☆物語の読み方を説明する
40分	２．文章を通読する	△段落を展開に注意して聴く △読み方の確認	◇段落を意識して内容を把握しているか
	３．初めて読んだ感想を書いたうえで伝え合う	△感想をノートに書き、周りの人と交流する	◇積極的に感想を交流しようとしている
	４．登場人物と語り手を確認する	〇今回の語り手は誰でしょうか	☆語り手のシュンタの内面が詳しく表現されている
	５．各場面の内容をおおまかに捉える		☆物語には発端・山場・結末があることを理解させる ☆場面ごとの内容を押さえる
５分	６．次時の予告をする	△教科書をもう一度読んでくるように	☆学習の見通しを持たせる

授業を参観した感想を生徒役の受講生に求めたのち、教員から気付いた点を述べた。学生作成指導案の「学習内容」の順番に提示する。

「１．目標と本時の流れの確認」では、指導案には書かれていなかったが、「物語は好きですか」、「苦手な人は場面の展開を意識して読むようにしましょう」などの発問や声掛けがあった。本教材が中学校で初めて学ぶ文学的文章であることを考慮し、学習目標を生徒に意識させるためのものと評価できるが、発言の際の言い回しや言葉選びが中学１年生には難しいものであった。いかに生徒の「主体的な学び」を喚起させるかに苦心していたようであるが、第２節で示したように、教材が生徒にとって身近な内容であることを意識させる発問や、作者についての情報を話題にすることも方法の一つである。また目標の確認の際は、教科書28～29ページを生徒自身に確認させるなど、積極的に教科書を活用することが望ましいだろう。

「２．文章を通読する」では朗読ＣＤを用いた。模擬授業では視聴の時間をその後の計画の確認や板書の用意に取り組んでいたが、実際の授業では生徒の反応を見ておく必要がある。

「３．初めて読んだ感想を書いたうえで伝え合う」では、具体的な指示に欠けていることや、何のための学習活動なのかが不明確であるといった指摘がなされた。前者の改善策としては、「４．登場人物と語り手を確認する」「５．各場面の内容をおおまかに捉える」と順番を入れ替える等、感想を書かせる前に大まかな内容を捉えさせること、同じ様な経験をしたことはないか等、生徒自身の経験に結びつけて物語を捉えるように促すことが挙げられるだろう。さらに感想を書くことを「２．文章を通読する」でＣＤを視聴する前に述べておくことも重要である。また、後者については、「１．目標と本時の流れの確認」の際、教科書を確認して学習全体の見通しを示しておくこと、４時間を通して物語を読み深めた後に再度自分の考えを書く活動があるため、生徒自身の学習の深まりを意識してほしいなどの声掛けをすることが望ましい。

「４．登場人物と語り手を確認する」「５．各場面の内容をおおまかに捉える」では、「１．目標と本時の流れの確認」と同様、「語り手」や「(物語の）展開」などの言葉選びが生徒にとっては難しいものであること、むしろこれらの概念はこの後の具体的な学習活動で理解させるものであることが指摘された。また、「５．各場面の内容をおおまかに捉える」では、教科書「学習の窓」の「発端・山場・結末」の図を板書して説明するという工夫が見られたが、ここでも生徒自身に教科書を確認させたほうが良いのではないかという指摘があった。

第１回目の模擬授業では、最初のグループであったこともあり、新出漢字や語句に関する時間が設けられていなかった。第２回目ではその点が改善され、専用のプリントを用いた学習活動が追加された。

上記を含め、第２回目の模擬授業では様々な点で改善が見られたが、今度は内容を詰め込みすぎるという問題点が指摘された。全４時間の授業計画を見通した上で、学習目標を段階的に達成していく意識を持ち、本時の中心となる活動を明確にすることが重要である。

4-2 「辞書に描かれたもの」模擬授業

2022年11月８日（第１時１回目)、2022年11月22日（改善第１時２回目）に模擬授業を行わせた。「シンシュン」(第１時１回目）後の担当であり、模擬授業の進め方を参考にできたグループである。

初回（１回目の第１時模擬授業）で学生が作成した学習指導案のうち「指導過程（第１時)」の学習活動、指導内容、計画時間設定を次に示す。

時間配分	学習内容	学習活動 〇発問　　△指示	☆指導上の留意点 ◇評価基準
２分	１．目標と流れの確認		☆小説の読み方を説明する。
46分	２．全編通読（20分） ３．形式段落、内容の確認（10分） ４．語句調べ（10分） ５．新出漢字（６分）	△段落を意識して聴く △読み方の確認 △教科書で確認 △ワークシート	◇段落を意識して内容を把握しているか ◇語句・漢字を理解し、正しく使えるか ☆ワークシートにより理解を深める。理解語彙の増加につなげる。
２分	６．次回の予告（２分）	△教科書をもう一度読んでくるように	☆学習の見通しを持たせる

授業を参観しての感想を生徒役の受講生に求めたのち教員から気付いた点を述べた。学生作成指導案の「学習内容」の順番に提示する。

「１．目標と流れの確認」では、新単元の始まりで生徒に「主体的に学ぶ」という自覚を持たせる質問や指示が欠けていた。前週（シンシュン担当）にも伝えたが、授業を受けるのは中学生であり、授業での話し方や内容が大学生向け（大学での演習発表時の話し方）になってしまいがちである。教科書ｐ44に掲載されている「てびき」を開き、目標を認識させることが必要であるが、実習生は教科書を活用することに意識が向かないのでなかなかできないようである。冒頭の短い時間ではあるが、作品タイトルの意味を問う意識を生徒に持たせてみることも一つの方法である。

「２．全編通読」は朗読CDを用いたが、本教材はボリュームがあり、通しで聴くと20分かかる。第１時の40％の時間が「聴く」だけの時間となるので、どのような方法で生徒に集中させるかという課題が浮かび上がる。

「３．形式段落、内容の確認」では、形式段落の確認をした後すぐに意味段落に分ける場合の「正解」を生徒に示すことをした。場面ごとに二人（私と上野）の関係は変化するので、第２時に「私」の心が変化する過程を本文から抜き出すなどの作業を経て意味段落を生徒自身に発見させる指導をしてもよかったと考えられる。「主体的な学び」をどのように導くのか、教師自身が課題意識を持つべきである。

「４．語句調べ　５．新出漢字」ではワークシートを用いて意味調べ学習や漢字の書き取り学習を行ったが、新出漢字については生徒の理解度や定着度を測りながらの指導が不十分であった。

「６．次回の予告」については漢字学習の指示が行われたが、作品全体を通読し、概要を学んだ上で、「どうして二人は友だちを続けられなかったのか、次回以降の授業で学びながら考えてみましょう」など第４時（読後感のまとめや話し合い）に向けての発問をしてみることも一つの方法として考えてみる必要がある。

とりわけ「１．目標と流れの確認」のところで述べたように、「辞書に描かれたもの」というタイトルについて、授業冒頭の時間で生徒に考えさせてみることは重要ではないだろうか。誰の「辞書」か、何の「辞書」か、何が「描かれている」のか、最終時にタイトルの意味について自由に記述してもらったり、グループワークで話し合いをさせたり、さまざまな「考える」学習のきっかけになるだろう。小説のタイトルの意味、作者の意図（狙い）を普段から考えてみることで、主体的かつ積極的な読書活動につながることも期待できるのではないだろうか。

むすび

以上、新教材である「シンシュン」「辞書に描かれたもの」の導入授業について、国語科教育法受講生による模擬授業の実践例を示しつつ検討を行ってきた。各教材に即した授業デザインのポイントについては繰り返さないが、目的意識・課題意識を生徒に喚起し、主体的な学びにつなげる導入授業のためには、本文の通読以前の発問や声掛けが重要であることが改めて確認されたといえる。

とりわけ教職課程の受講者や実習生を指導する際には、中学生の理解度に即した言葉選びや教科書の積極的な活用を意識させることが必要である。さらに導入授業においては、新出漢字や語句の確認も不可欠な活動である。自宅学習を視野に入れ、限られた時間で効率的に活動が進められるよう、的確な指示やワークシートの作成が課題となる。教職課程の担当教員には、教材研究に加えて上記のような観点からも受講生を指導・評価することが求められる。

参考文献

『教育科学国語教育　特集　小学校･中学校　教科書「新教材」の教材研究&授業ガイド　No860』（2021）明治図書

・中学校 教科書「新教材」の教材分析・授業ガイド
　桐谷祥平「シンシュン」（光村図書）

大澤由紀「辞書に描かれたもの」（東京書籍）
高本英樹（2014）「いつどんな時どう板書するか　－工夫点は“ここ”物語文=主役と対役の関係を板書する時」『教育科学国語教育　特集　授業が上手い人が使う“板書の法則”No779』明治図書
町田守弘（2019）『実践国語科教育法　－「楽しく、力のつく」授業の創造』第三版　学文社